



# 平岡公園小だより

特別号

令和7年(2025年)

10月31日発行

【家庭数配付】

TEL: 011-885-9414 FAX: 011-885-9042

学校ホームページ <https://www.hiraokako-en-e.sapporo-c.ed.jp/>

学校メールアドレス [hiraokako-en-e@sapporo-c.ed.jp](mailto:hiraokako-en-e@sapporo-c.ed.jp)

(メールは、転送電話切り替え時の緊急用にお使いください)

学校 HP はこちら



## 全国学力・学習状況調査の結果の概要について

全国の小学6年生を対象に4月17日(木)に行われました全国学力・学習状況調査につきまして、本校の結果の概要をお知らせいたします。今回の調査結果から課題を明らかにし、今後の学習指導等に生かしていきます。なお、本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることをご留意ください。

### 1 調査内容

#### (1) 教科に関する調査(国語・算数・理科)

- ①身に付けておかなければ、後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能など
  - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などに関わる内容や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容
- 上記①と②を一体的に問うこととする

#### (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 2 実施日

令和7年(2025年)4月17日(木)

全国の平均正答率と比較して、以下の基準でお伝えします

- |                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| ・+3.1ポイント以上        | ⇒上回っている             |
| ・+3ポイントの範囲内で全国平均以上 | ⇒ほぼ同程度であるが、やや上回っている |
| ・全国平均と同じ           | ⇒ほぼ同程度              |
| ・-3ポイントの範囲内で全国平均以下 | ⇒ほぼ同程度であるが、やや下回っている |
| ・-3.1ポイント以下        | ⇒下回っている             |

教科に関する調査の結果概要及び改善の方向等について

	平岡公園小学校の <u>概要</u>	今回の調査結果の <u>分析</u>	<u>今後の方向性</u>
国 語	知識及び技能 「言葉の特徴や使い方に関する事項」 ・全国平均に比べ、 <u>上回っている</u> 。	【教科全体】 ・国語の学習指導要領の内容・算数、理科の学習指導要領の領域、全ての項目において、全国平均を上回っています。  ・問題形式の分析 選択問題・短答問題・記述問題のいずれも全国平均を上回っていて、課題と感じられる項目はありませんでした。  【国語科】 どの領域に関しても今回の調査による大きな課題は見当たりませんでした。 知識・技能の観点の問題、思考・判断・表現の観点の問題、ともにしっかりと力を付けてきていると考えられます。 情報の扱い方に関する事項の領域の問題は特にしっかりと力を付けていることが分かりました。  【算数科】 どの領域に関しても今回の調査による大きな課題は見当たりませんでした。 知識・技能の観点の問題、思考判断・表現の観点の問題、ともにしっかりと力を付けてきていると考えられます。 数と計算・図形の領域の問題は特にしっかりと力を付けていることが分かりました。  【理科】 どの領域に関しても今回の調査による大きな課題は見当たりませんでした。 知識・技能の観点の問題、思考判断・表現の観点の問題、ともにしっかりと力を付けてきていると考えられます。 「生命」を柱とする領域の問題は特にしっかりと力を付けていることが分かりました。	教科に関する調査の結果からは、全体としての課題は見当たりませんでした。  今後も一人一人の苦手意識や困り感に寄り添っていくことで『個別最適な学び』につながる学習指導や児童理解に努めていきます。  また、本校は今年度から研究主題を『輝くひとみが溢れる学びのシンカ～わくわくが止められない、子どもが自己決定する授業の創造～』と設定しております。主体的、対話的で深い学びによる授業を一層促進するだけでなく、学びを実生活や次の学びに生かすことで、「本物の経験」を積んでいくことも目指していきます。  子どもたちが自己決定したくなるような授業の導入や、自己の変容を実感できるような授業展開を考えるなど、校内での授業研究や研修を通して、教職員の更なる授業力の向上を目指していきます。
	知識及び技能 「情報の扱い方に関する事項」 ・全国平均に比べ、 <u>上回っている</u> 。		
	知識及び技能 「我が国の言語文化に関する事項」 ・全国平均に比べ、 <u>上回っている</u> 。		
	思考力・判断力・表現力等 「話すこと・聞くこと」 ・全国平均に比べ、 <u>上回っている</u> 。		
	思考力・判断力・表現力等 「書くこと」 ・全国平均に比べ、 <u>上回っている</u> 。		
	思考力・判断力・表現力等 「読むこと」 ・全国平均に比べ、 <u>上回っている</u> 。		
算 数	「数と計算」 ・全国平均に比べ、 <u>上回っている</u> 。	【算数科】 どの領域に関しても今回の調査による大きな課題は見当たりませんでした。 知識・技能の観点の問題、思考判断・表現の観点の問題、ともにしっかりと力を付けてきていると考えられます。 数と計算・図形の領域の問題は特にしっかりと力を付けていることが分かりました。	
	「図形」 ・全国平均に比べ、 <u>上回っている</u> 。		
	「測定」 ・全国平均に比べ、 <u>上回っている</u> 。		
	「変化と関係」 ・全国平均に比べ、 <u>上回っている</u> 。		
	「データの活用」 ・全国平均に比べ、 <u>上回っている</u> 。		
理 科	「エネルギーを柱とする領域」 ・全国平均に比べ、 <u>上回っている</u> 。		
	「粒子を柱とする領域」 ・全国平均に比べ、 <u>上回っている</u> 。		
	「生命を柱とする領域」 ・全国平均に比べ、 <u>上回っている</u> 。		
	「地球を柱とする領域」 ・全国平均に比べ、 <u>上回っている</u> 。		

## 【児童質問紙による学習状況調査の結果】

日常の学習や生活についての学習状況調査は、全71項目のうち、本校児童と全国的傾向に大きな差異がみられる質問項目についてお知らせします

★ A:当てはまる B:どちらかといえば当てはまる C:どちらかといえば当てはまらない D:当てはまらない の4段階回答  
A+B を肯定的な回答として比較しています。

### 肯定的な回答が多い項目

「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか？」  
「人の役に立つ人間になりたいと思いますか？」  
⇒全国平均に比べ、上回っている

#### 【結果の分析】

前向きに学習に取り組む姿や、仲間と支え合う姿など公園小の子どもたちには素敵な姿がたくさんあります。その素敵な姿をわたしたち教職員が進んで認め、子どもたち同士が認め合える雰囲気づくりを大事にしています。また、ふれあい活動や委員会活動など、相手のことを考えて創る活動では、相手が喜ぶ姿が自分たちの満足感につながるように、子どもたちを指導・支援してきました。日々の取組を通して自己肯定感や自己有用感が高まってきていると考えます。

「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか？」  
「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか？」  
⇒全国平均に比べ、上回っている

#### 【結果の分析】

昨年度までの5年間、『ひとみを輝かせて、学ぶ子の育成 ～子どもの姿から学び合う授業改善～』を意識し、主体的、対話的で深い学びを目指して授業改善を図ってきました。多様な考え方に触れ、自分との違いに気付いたり、自己の見方考え方が広がったりすることに楽しさを感じることができてきていると考えます。

前ページの「今後の方向性」にも記述したように、今後も主体的、対話的で深い学びによる授業をより一層促進していきたいと考えます。

「5年生までに受けた授業の中でICT機器を活用することについて」

- ・自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる
- ・友達と考えを共有したり、比べたりしやすくなる

⇒全国平均に比べ、上回っている

#### 【結果の分析】

一人一台端末（タブレット）は、意見交流をしたり、自分の考えをまとめ、発表したりといった、他者との関わり、友達との交流に活用しています。特に、3年生以上の子は、スクールタクトを使うことで、自分の思いや考えを整理したり、友達の意見を参考にしたり、写真等を共有したりできています。

今後も健康面などに留意しながら、効果的に活用できるように工夫して指導していきます。

「あなたの学級では、生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか？」  
「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか？」

⇒全国平均に比べ、上回っている

#### 【結果の分析】

学年の発達段階に応じて、各学年学級会を開いて話し合いの場をもっています。その場では、司会や記録も子どもたちが務め、教師が支援しながら学校生活のことを自己決定しています。

そのような学級会の経験を積み重ねていく中で主体的に学級に関わる意識が高まっていると考えます。今後も、子どもたちの主体性を育てていくため学級会を続けていきたいと考えています。

### 本校の課題が見える項目

いくつか全国の平均に比べ下回っている項目がありました。本校の毎年の課題なのか、現6年生の課題なのかを分析し、改善できるよう工夫していきます。

「将来の夢や目標を持っていますか？」  
⇒全国平均に比べ、下回っている

#### 【結果の分析】

将来の夢や目標について具体的なイメージをまだ持っていない子どもも多いようです。

本校、6年生サクラタイム「働く」では、様々な職業の人と出会い、働く人々の「働きがい」に気付くとともに、自分の将来のイメージを膨らませることも大切にしています。また、小中一貫の取組で、三里塚小学校や平岡緑中学校、パートナー校とも協働し、子どもたちのキャリア形成につながるカリキュラムの見直しを進めていきます。

「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか？」

⇒全国平均に比べ、下回っている

#### 【結果の分析】

困った時や分からない時に自分から尋ねたり、学び方を工夫したりして解決することを苦手に思っているようです。困った時こそ、周りの大人や友達を頼り、だれかと一緒に解決をしていく力を育てていきたいと考えます。

まず、私たち教職員が相談しやすい雰囲気づくりや環境づくりに努め、子どもたちに寄り添っていきます。